

進捗状況の概要（1ページ以内）

計画調書に基づき、令和4年度の実施計画に沿って、以下の通り事業を推進した。

1. 事業計画実施体制

令和4年度も、学長を中心とした教職協働による組織的な実施体制で事業を推進した。全学的な教学マネジメント推進組織である教育開発機構（以下機構）、教育開発室、「ひらめき・こと・もの・ひと」づくりプログラム運営委員会（以下運営委員会）との連携により事業を推進した。運営委員会については、本事業プログラムを先行して実施している理工学部3学科の関係教員に加え、今後の全学展開を見据えて、年度途中より、それ以外の各学部・各学科より選出した教員にも運営委員会に参加してもらう体制を整えた。また、本事業プログラムの適正な実施のために、自己点検・評価を行い、それに対する東京都市大学質保証外部評価委員会による外部評価の実施や、産業界等、学外の有識者からなるアドバイザー委員会の開催により、事業計画の進捗状況について、指導・助言等を受けることで、本事業プログラム改善のためのPDCAを適切に回し、採択事業計画の適正な実施に努め結果、概ね滞りなく事業計画を実施することができた。この実施体制のもと、関係委員会等と連携し、FDの実施、特設Webサイトや機構発行のNews Letter等を通じ、学内外へ本事業プログラムの取組を発信し、更なる理解の促進に努めた。

2. 到達目標と事業内容

三つの方針の再確認や、授業科目の新設等、プログラムが目指す「5つの力」（ひらめきづくり、ことづくり、ものづくり、ひとづくり、AI・ビッグデータ・数理データサイエンス）に関する教育課程の編成として、新たに、「ひらめきづくり(3)」、「ひらめきづくり(4)」、「ことづくり(2)」、「ことづくり(3)」等を開講した。成績評価については、標準ルーブリックの策定がほぼ完了し、令和5年度から、ディプロマサプリメントシステムに実装予定としている。その他、到達目標の検証のため、2021年度プログラム参加学生（以下1期生）と2022年度プログラム参加学生（以下2期生）について、非参加学生との全成績の平均GPAの比較や、「SD PBL(1)」、「SD PBL(2)」科目の平均GPAの比較、授業時間外学習時間の比較等を行った。

3. 年度別の計画

人材任用、教育課程の編成、FD実施、特設Webサイトや機構発行のNews Letter等を通じた学内外への情報発信により、本事業プログラムの更なる理解の促進に努めた。学外有識者の外部評価による本事業プログラムの改善取組を継続し、令和5年度に向け、新たに「くらしづくり」科目群の整備等を行った。選定時や中間評価時に付された留意事項に対しても、継続取組し、学内関係会議等を通じて、必要な説明や留意事項を実施することで適切に対応した。先行して本事業プログラムを実施している理工学部以外の他学部他学科の導入を促すための全学的な議論については、プログラム未参加の各学部・各学科より選出された教員にも運営委員会に参加してもらうことにより、全学展開に向けた議論を進めた。

4. プログラムを通じて構築される全学的なマネジメント改革への対応状況

機構を中心に、理系・文系を問わず全学生が数理及びデータサイエンスの知識を習得し活用することを目的とした教育を検討、関係委員会、教授会等の承認を経て全学的に導入し、本事業プログラムの意業の「5つの力」の一つである、「AI・ビッグデータ・数理データサイエンス」の素養を養うための科目の整備し、開講に繋げるなど、全学横断的な改革を推進している。また、運営委員会構成員の拡充等により、事業計画の継続性を確保できる管理運営体制の機能を強化している。さらに、関係施策に関する、機構と運営委員会、その他、関係委員会等とのやり取りも適宜行われ、今後の全学展開に向け、関係委員会等を通じて、各学部・各学科の理解と協力も促進しており、本事業プログラムを通じて、大学教育の改革をするための教学マネジメントは機能しているものと考えている。